

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 36 週 2026 年 8 月 31 日 ~ 9 月 6 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、
インフルエンザが流行期入りしています。

2026 年第 36 週の報告です。

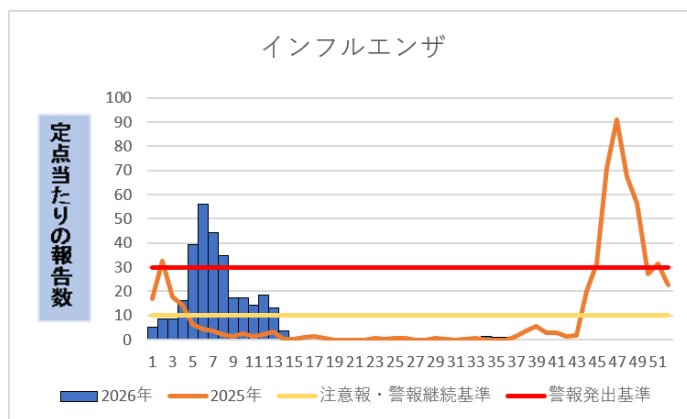
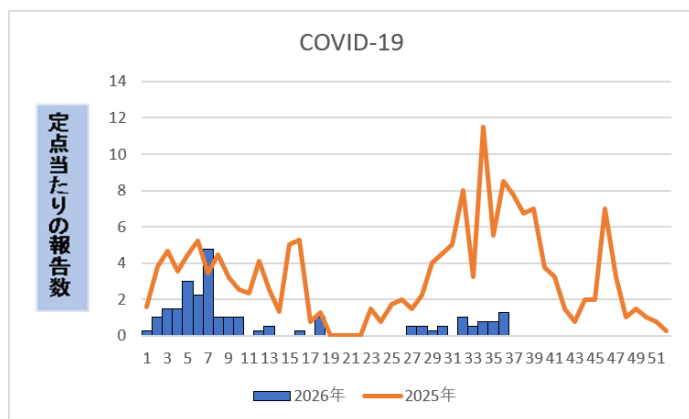
○新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は、南丹 1.25(前週 0.75)、京都府 2.39(前週 1.43)となっています。

○インフルエンザの病定点あたりの報告数は、南丹 1(前週 1)、京都府 3.59(前週 2.26)となっています。

○A群溶結性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 1(前週 1)、京都府 1.65(前週 1.29)となっています。

○手足口病の定点あたり報告数は、南丹 1(前週 1.5)、京都府 1.27(前週 0.71)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

例年より早くインフルエンザが流行期に入っています

京都府では第 35 週(令和 8 年 8 月 24 日～8 月 30 日)にインフルエンザの流行期に入りました。南丹保健所管内でも、第 34 週(令和 8 年 8 月 17 日～8 月 23 日)から流行入りし、第 36 週の定点あたり報告数は 1.0 を超えています。

インフルエンザは例年、秋から冬にかけて患者が増え始め、冬に流行のピークを迎えます。これから本格的な流行シーズンを迎えるため、今のうちから予防対策を心がけましょう。

○インフルエンザとは？

インフルエンザウイルスに感染することで起こる感染症で、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等の症状は比較的急速に現れるのが特徴です。併せて、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。

○気を付けることは？

手洗い、うがい、手指消毒等を行うことや適度な湿度(50～60%)を保つこと、十分な休養とバランスの取れた栄養をとることなどがあげられます。また、流行時期は人混みや繁華街への外出を控えたり、不織布製のマスクを着用することも大切です。

また、インフルエンザワクチンを接種することは発症予防や重症化予防にもつながります。特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性の高い方はワクチン接種をご検討ください。

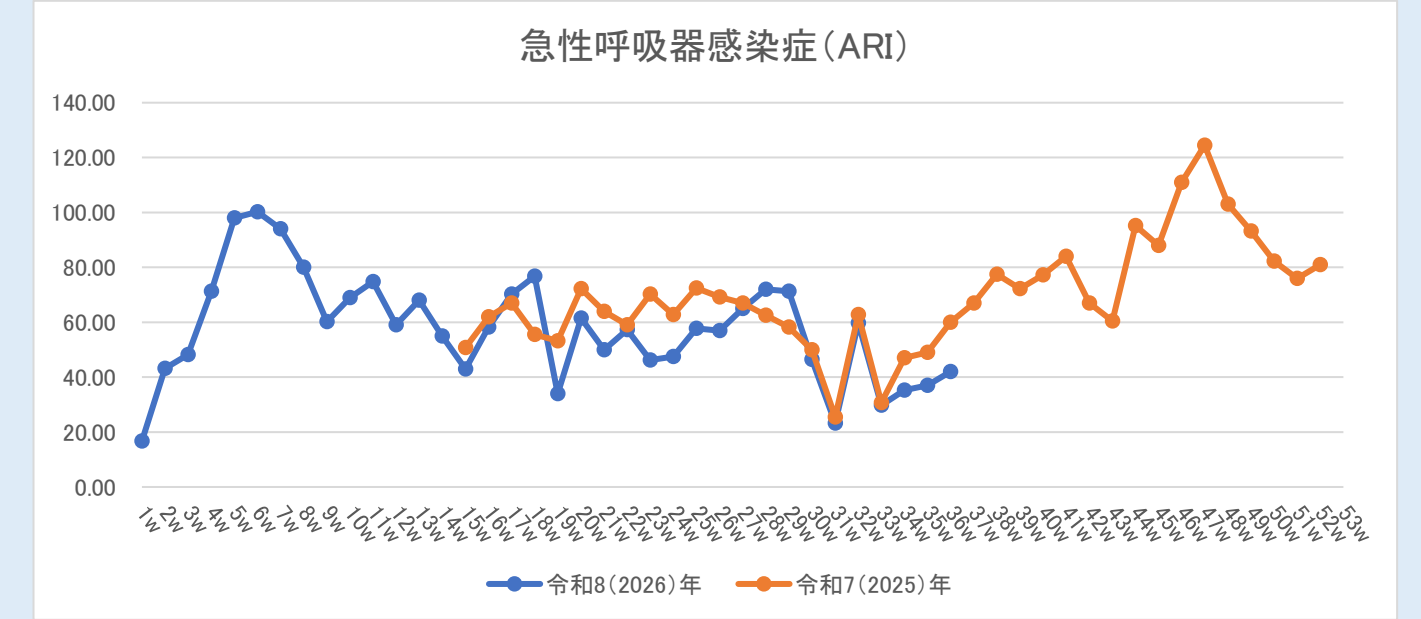
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.36w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	1.00	→	1.00
新型コロナウイルス感染症				1.25	↗	0.75
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	↘	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.00	→	1.00
感染性胃腸炎	20	12		0.50	↘	1.50
水痘	2	1	1	0.50	→	0.50
手足口病	5	2		1.00	↘	1.50
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	↘	1.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 36 週報告数は 168 件(定点当たりの報告数 42.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)